

平成29年 第2回(臨時会)

## 厚真町教育委員会会議録

1 開会

平成29年2月14日(火) 午後1時30分

2 閉会

平成29年2月14日(火) 午後5時20分

3 出席委員の氏名

遠藤 秀明 佐藤 泰夫 伴 俊行 森本 早苗

4 委員及び傍聴人以外の会議出席者氏名

生涯学習課長 沼田 和男 生涯学習課参事 橋本 欣哉

【書記】学校教育G主査 山口 憲一

5 会議録署名委員の指名

( 森本 早苗 )

( 佐藤 泰夫 )

6 教育長報告

教育費予算案について

(資料1)

【質疑】

佐藤委員：厨房機器更新に2千万について、昨年もあったが、残りの分なのか。

沼田課長：計画に基づいて毎年更新している。

伴委員：ICT教育推進事業について、前年と比較すると5,511千円となっている。機器の整備更新はどうなるのか。

沼田課長：教師用タブレット等の購入など予定している。平成29年度について、11,393千円で予算要求しているが、備荒資金組合からの借り入れによる購入となったため、支払いについては利息分しか発生しない。これについては、小・中学校費からそれぞれ支出される。

遠藤教育長：小・中学校のコンピュータ機器整備事業に移されたため、予算の振替による減額。

伴委員：小・中学校のコンピュータ機器整備事業の増額分を合わせても2,363千円にしかない。ICT教育推進事業の減額は5,511千円だが。

沼田課長：平成28年度については、教師用のタブレット等を計上して5,611千円なのに対し、平成29年度については、11,393千円で予算要求していた。平成29年度分については、備荒資金で購入するため、平成29年度分については利息分のみが計上される。この利息分について、小・中学校費にそれぞれ振り替えている。

遠藤教育長：小・中学校費のコンピュータ機器整備事業の増額分については、平成28年度に購入した分の償還金が、平成28年度は利息分のみだったが、平成29年度からは元金分の償還額が含まれるようになり、それが増額分として表れている。平成29年度購入分については、平成30年度に表れてくる。

伴 委 員：スクールバスの管理運営費について、なぜ小・中学校に分けるのか。教育委員会で運営しているのだから、教育委員会費に置くべきではないか。

沼田課長：小学校分・中学校分に係る燃料費や人件費を明確にするために分けている。あつまバスへの委託分については、これまで中学校費に一括計上していたが、これを小・中学校費に分けるように指示があったので、平成29年度から一部小学校費に振り分けたことで、増減が発生している。

伴 委 員：スクールバスを管理運営しているのは教育委員会なのだから、小学校や中学校の費用ではなく、教育委員会費として扱うべきだと思うのだが。

沼田課長：考え方として、教育委員会が直接かかるもの、教育委員会で直接執行するものについては教育委員会費、学校に直接かかってくる経費については、小・中学校費としている。

遠藤教育長：小・中学校に区分できるものはそのように科目設定している。小学校と中学校でそれぞれかかっている経費を調べる上で分けられている方が都合がいい。今回、委託費についても、明確にするために分けた。

橋本参事：予算編成上で決まり事があり、決算統計などで影響が出てくる。

伴 委 員：社会教育費の青少年センター整備事業にプラネタリウム機器更新とあるが、これはいつ頃入るのか。

橋本参事：納期について、おそらくは受注生産になるため、発注してすぐにとはいかない。例えば札幌市では、リニューアルの際に2～3ヶ月閉鎖している。古い機械については、全く使えないわけではないので、予算がはつきりしてから業者に設置期間を確認して調整する。

伴 委 員：運用できる職員はいるのか。

橋本参事：デジタル機器を購入しようと考えているが、運用に関しては現行のものよりも容易。例えば、〇月×日の星座の位置などは、現行では職員がある程度憶えていなければならないが、デジタル機器ならばその必要はなく、ボタン一つで済む。また、太陽系から出て銀河の世界に行ったり、百万年前や百万年後の星空を見るなど、色々なことができる。運用次第では長期にわたり関心を持ってもらえる。「今日の星空」だけならボタン一つだが、せっかく導入するのだから、いずれ独自のプログラムを用意したい。

伴 委 員：近隣にはあまりないものなので、厚真町独自のものとして宣伝できると思う。

橋本参事：苫小牧市や室蘭市にある光学式は、星をきれいに映せるが、いわゆる天文ショー的なものはできない。光学式とデジタルを併せたハイブリッドは整備するには1億円くらいかかる。札幌市などはそれくらいのものを導入している。デジタル機器ならば、星空以外にも投影することができる。プラネタリウムの投影機を使ってまちづくりPRをすることもできる。これは金沢市で実践されており、観光PRの番組がつけられている。また、投影回数について、現行は月1回のペースだが、週に1回にするなど増やしていく。導入期間についてはこれからだが、年度末にならないようにする。ザンボニーのように繰越事業にはしない。

遠藤教育長：天体望遠鏡やプラネタリウムはあるが、子どもたちが厚真町で育っていく間に一度も利用しないこともあると思う。来てくれた子供だけを対象にするというのも寂しい。小学校卒業するまで1回とか、学校と連携して何らかの形で体験できるようにしたい。

橋本参事：現在も小学校4年生などの授業で活用している。また、厚真地区の学童保育で季節に1回程度利用している。それとは別に、個人で来て楽しんでもらえるようにしたい。

伴委員：新たに関心を持ってもらえるチャンスだと思う。

橋本参事：現在は夜にプラネタリウムをやって、晴れていれば、望遠鏡も使っている。今年は天気に恵まれていないが、月1回程度実施している。

佐藤委員：プラネタリウムというのは夜にやらなければならないのか。

橋本参事：夜でなくてもできるが、同時に天体観測を企画しているため、夜に実施している。

伴委員：きっかけになればいいと思う。ザンボニーの導入についてもスケートリンクの氷が良くなることで、スケート選手が増えることを期待していた。

佐藤委員：ザンボニーの整備費用は？

橋本参事：ザンボニーの購入価格は20,600千円、導入後の整備等の経費についてはガソリン代と格納庫を温めるための灯油代くらいしかかかっていない。また、ザンボニーの運転等は業者に委託している。

佐藤委員：スタードームの温水配管について。

橋本参事：平成7年度設置で20年以上が経過しており、配管が腐食してきている。昨年応急処置をしているが、新年度に本格的な改修を行う。ボイラーそのものではないが、こちらも限界が近い。また、昨年7月あたりから雨漏りが目立ってきているので、これの修繕も予定している。

遠藤教育長：平成一桁台に建てられた施設については、大規模な改修が必要になってきている。

橋本参事：スポーツセンターは平成23年に大規模な改修を行っている。

## 7 議案

議案第1号 平成29年度教育行政執行方針について

(資料2)

### 【質疑】

伴委員：厚真高校の教育支援について、「質の高い教育を支える教育環境の確保」に含めているが、高校教育に対しては教育方針ではなく、援助や支援にあたるので、これは別枠を設けるべきだと思う。また、「生涯学習社会づくり推進」の最後のプラネタリウムの部分について、更新してどのように活用していくのかなどを付け加えないと、この部分だけ方針ではなく単なる報告になってしまう。

遠藤教育長：教育振興基本計画の中に厚真高校の存続について含めないわけにはいかなかった。位置づけについては悩ましいところではあったが、広い意味で教育環境の確保に含められると考えた。プラネタリウムについては、活用方法などを書き加える。

佐藤委員：「町民体育祭」について、「集まりンピック」が定着しているので、こちらの方がいいと思う。

橋本参事：町民体育祭は、古くから携わっている人たちに馴染んだ名称。現在は集まりンピックでいいと思う。

## 8 協議

中学生海外派遣事業(手挙げ方式)の検討について

(資料2-2)

### 【質疑】

伴委員：派遣人数は、具体的にどれくらい予想しているのか。

沼田課長：派遣人数が多くなると、引率の数も必要になる。学校の修学旅行から、教育委員会による検証目的となったため、手挙げ方式で希望者を集め、その中で、面接等で15人程度に絞っていきたいと考えている。学校の教育課程ではなく、検証を目的とした教育委員

会主導のものということ踏まえた上で意見をいただきたい。

遠藤教育長：当初は修学旅行となっており、現中学1年生が3年生になった段階で、という予定だったのが、アンケート等で不安材料が多いことから見直しを求められた。平成30年度の2年生からとする方がやりやすさはあるが、すでに行く気になっていた子どもたちのことを考えると、配慮せざるを得ない。改めて3年生だけにすると、修学旅行と海外派遣、これに加えて高校受験となると、子どもたちの負担と家庭の経済的な負担が大きい。このため、人数が集まらなくなるという懸念が生じたため、対象を2～3年生とした。

伴 委 員：白紙に戻したのだから、そのあたりの配慮は不要ではないか。だが、対象を2～3年生とするのは悪くないと思うが、修学旅行の予定変更を理由とする必要はないと思う。英語の勉強は2年生よりも3年生の方がやっているのだから、3年生が2年生を手助けできる。人数について、66名は無理なので、多くて20人程度だと思う。

遠藤教育長：過去の実績でも20人程度。人数については割り切って絞らなければならない。

沼田 課 長：以前の海外派遣の際、どのように人数を決めたのか。

橋本 参 事：当時は中学生が15人程度。選考については学校に任せていた。学校ごとの割振りは生徒数に応じて決めていた。予め人数を設定して、予算についてはその人数で、オーストラリアで600万円程度の予算を組んでいた。1年生も希望を挙げることはできたが、学校が選考した結果、ほとんどが3年生だった。そのときも7月下旬から8月上旬で、ホームステイを含めていた。

伴 委 員：選考は難しい。学校側が嫌がる。

橋本 参 事：当時もそのあたりのことが問題になった。

伴 委 員：当時は学校側が選考して提出し、教育委員会が決定するというやり方を探っていた。

沼田 課 長：人数について、なにかしらの根拠をもって決定したい。

橋本 参 事：昔の海外派遣では、当時の中学3年生が50人程で15人程の参加だったので、おおむね3分の1程度だった。議員からは半端な人数ではなく、全員行けばいいのではないかという意見も出ていた。また当時は、パスポートと小遣い以外は、全額町が負担していた。総勢20人くらいになると、養護教諭の動向が必要となり、町の保健師が同行したこともある。

沼田 課 長：英語の専科の教諭に同行してもらうことになる。

橋本 参 事：当時は国際理解力推進委員会という小中学校の教員でつくる組織があり、海外派遣の際の事前研修などで協力を得られた。

遠藤教育長：以前は文化交流や観光旅行的な意味があった。今回はコミュニケーション能力がどれだけ身につけているのかの検証を目的としている。

伴 委 員：事務局1名と担当教諭2名が同行することになっているが、責任者は誰になるのか。

沼田 課 長：以前は学校長が団長だった。人数設定によって引率者も変わってくるので決まっていない。

伴 委 員：なにかあったときのために責任者は必要。

橋本 参 事：手挙げ方式にしたので希望者は連れて行ってあげたい。

伴 委 員：だからといって、全員が希望すれば全員をとというわけにはいかない。

橋本 参 事：子供の側からすれば、修学旅行に加えて海外にも行けるのだから、いい経験ができる。

伴 委 員：金銭的な負担が問題になると思う。町が全額負担するならば、保護者の負担は少ないが、3年生には修学旅行の負担があるのでこれに加えて新たに費用負担が発生するととなると、金額によっては重くのしかかる。

沼田 課 長：修学旅行として考えていたときは、町が3分の2を負担することになっていたが、手挙

げ方式となると、そうはいかなくなる。

伴 委 員：教育委員会が検証するために実施するのだから、検証するために派遣するのに負担を強いるのか、という見方もできる。検証目的ではなく、実践の機会を与えて、将来の希望につなげるということにしてみてもいいのではないか。

遠藤教育長：その場合だと、3年に期間を限ることができず、継続しなければならなくなる。検証ということにして期間を限定したという経緯がある。

沼田課長：検証に協力してもらうという形にするのであれば、人数を絞った上で町が全額負担するという方法も採れる。

遠藤教育長：その場合は選考でもめることになる。

沼田課長：道内の例では大滝などが国際交流協会の基金を使って個人的な費用を別にして継続して実施している。そのほかでは、負担金を予め5万円に設定しているところもある。

森本委員：全額負担とすると、父兄や子どもたちの考えが変わってくると思う。3分の1程度の自己負担を設定したうえで募集した方がいい。

伴 委 員：町の予算をどれくらいつけられるのかにもよると思う。

遠藤教育長：平成30年度予算になるので、これから町と内容のすり合わせを行っていく。

沼田課長：現状では何とも言えない。

遠藤教育長：保護者からは、検証というと、どのように誰が検証するのかという疑問が上がっている。

伴 委 員：ホームステイの間の検証は難しいと思う。集団的な行動の中でなら検証することはできる。また、事後の感想やアンケートなどでもできると思う。人数と負担割合を決める方が難しい。

橋本参事：保護者側にとっては負担額は重要。町費で負担するにしても、パスポート代と小遣いで数万円になる。

沼田課長：昨年3月の試算で323千円（4泊6日）として、3分の1で10万円だったので、価格の変動も考えられるので、個人負担は10万円（パスポート代等は別）、それ以外については町負担とした方がいいのではないかと思います。

遠藤教育長：修学旅行に位置づけていたときは、海外に行くのだからということで、保護者側も10万円程度の負担に納得していた。3年生の参加者は修学旅行で7万円程の負担に加えて、夏休みに10万円の負担となると厳しいのではないかと。

沼田課長：負担額については、早い段階で周知しておくべきだと思う。

遠藤教育長：検証といえども、海外に行けるのだから、全額町負担とはいかない。

橋本参事：以前の海外派遣も、全額負担については問題になっていた。

遠藤教育長：コミュニケーションが取れることと、コミュニケーションをする意欲があることは違う。実際に試してみて、挫折するかもしれないし、逆に発奮するかもしれない。どこかで足切りするのは難しい。本当は、希望した子ども全員を行かせてあげたい。修学旅行の場合は最大35人で費用負担についても試算が容易だった。

沼田課長：希望者全員となると、引率者の増員が必要になるケースが生じる。修学旅行の引率教員は何人程度だろうか。

伴 委 員：1学級なので、養護教諭を含めて3名。添乗員は何人つくのだろうか。

沼田課長：未定。

遠藤教育長：引率者の人数については、旅行会社との話し合いが必要。対象者は2～3年生となっているが、1度行った生徒については、2回目は遠慮してもらうのか。

沼田課長：そうなる。以前の海外派遣もそうだった。

伴 委 員：検証目的なのに10万円も負担させると参加者から不満が生じそうだが。

沼田課長：負担額等を示した上で募集をかける。そのあたりは割り切って考えないといけない。

伴委員：選考方法に対するクレームについては？

沼田課長：異議のある人は、そもそも手を挙げなければいい。こちら決めた募集要項に従って応募してもらおう。町長が総合教育会議の中でも話しているが、修学旅行ではなく、町の制度として手挙げ方式にしたのだから、決められた中で速やかに進めていくことにしている。保護者にアンケートをとったりせず、こちらで決めて、その上で募集をかけていかなければ進まない。

伴委員：保護者負担が10万円、人数が30人となると、引率者の増員が必要になると思われるが。

沼田課長：保護者アンケートでは10万円の負担で26%が賛成となっていた。通常の修学旅行費7万円に3万円を加えた額という認識で、15人程度という計算になる。修学旅行費7万円と更に10万円の負担となると、実際に希望する人数はもっと少なくなると思われる。

橋本参事：負担金を5万円にするか、10万円にするかで希望者が大きく変動すると思われる。

伴委員：5万円なら、希望する人が倍増するのではないか。

沼田課長：検証という目的を考えると、大人数は必要ない。

伴委員：人数と負担金、どちらかを先に決めておくべきだろう。

遠藤教育長：以前の派遣事業は、全額を町が負担して総額600万円程で、その内数で収まるなら35人でも大丈夫だと考えられてきた。

沼田課長：予算を600万円として、全額町負担で一人当たり40万円とすると15人。10万円を保護者負担とすると20人。全額町負担だと応募者が増えて選考が難航する。やはりある程度の負担を求めたい。

橋本参事：旅行費用も値上がりしている。当時は25万円程だった。

沼田課長：引率者には負担を求められないので、保護者負担5万円とすると15人と引率者3人で合計18人となる。

伴委員：保護者負担5万円では、15人のところ、30人くらい集まりそうだ。

佐藤委員：5万円のほかに個人の費用、パスポート代は別にかかる。

伴委員：パスポート代なら16千円前後。

橋本参事：パスポートならば、すでに所持している子もいるので、やはり私費になる。

遠藤教育長：私は30人でもいいと思っていた。最大30人、最少15人。けれどそれだと、経費が高額になるし、引率者数も変わってくる。それなら、最大15人、最少10人でいいと思う。

沼田課長：最大600万円で、引率を3人、一人当たり40万円とすると、保護者負担を10万円とすると、15～16人になる。

伴委員：保護者負担金10万円で手が挙がるだろうか。少なすぎるのも問題がある。

沼田課長：最少の人数を決めておかななくてはならない。10人でいいと思う。

伴委員：最大15人に対して最少10人では、幅が小さすぎないだろうか。最大20人最少10人であればいいと思う。

遠藤教育長：最大30最少20にできればいいのだが。この人数なら検証もいろいろできると思う。

沼田課長：検証の仕方についても、学校側と協議しなくてはならない。大勢になると、検証が難しくなると思う。

遠藤教育長：検証はさせてもらおうが、普段行けない外国を体験するというのもある。そういった経験は将来の財産になるから、負担については納得してもらえと思う。

伴 委 員：検証については、団体行動の部分や、帰国後の感想などでも十分だと思う。人数はあまり関係ない。

沼 田 課 長：議員や保護者が納得するような内容を示していかなければならない。

伴 委 員：最大20最少10で保護者負担を10万円とするのはどうだろうか。20人くらいであれば引率に先生が3人で事務局と合計4人いれば十分だと思う。

沼 田 課 長：教育委員会として協議した結果をまとめて町長と協議しなければならない。

遠藤教育長：旅行費用について、定額でまとめた方がいい。委員会として保護者に対して定額の負担を求めるのが妥当と考える。

伴 委 員：費用については、物価が上がっていることも踏まえて、600万円ではなくもっと高く設定した方がいい。

遠藤教育長：できれば単一学年が望ましいと思う。いまの1年生が3年生になったときに対象になるわけだが、積立期間が1年ほどと考えて、十分な人数が10万円の保護者負担を用意できればいいのだが。

伴 委 員：単一学年よりも複数学年の方がいいと思う。2学年が同行することが、個々のプラスになると思うし、1年の差というものを検証することもできる。

遠藤教育長：いまの1年生の積立期間は1年程度、次の1年生は1年または2年とすることができる。やはり3年生を優先した選考の仕方をすべきだと思う。2年目以降は、前年参加者を除外すればいい。もちろん3年生は優先される。物価の変動はあるかもしれないが、保護者負担は10万円で抑える。

沼 田 課 長：旅行会社からは4泊6日で検証できるのかと言われている。海外へ行って様子を見てくれるだけなら十分だが、ホームステイも含めると短い。

伴 委 員：7泊8日にするなど、日数を延ばせば、10万円の保護者負担も安く感じられるようになる。

沼 田 課 長：日数や内容については旅行会社と相談して予算の範囲内に収めるようにする。

遠藤教育長：子どもたちの参加希望なり意向調査はいつごろ確認するのか。

沼 田 課 長：他の市町村の例では、当該年度に入ってから募集をかけている。人数は10万円負担で最大20人として、選考方法を示した上で早い段階で周知しておく。その人数で平成30年度の予算を組み、平成30年度になってから募集をかける。前年度に意向調査をする必要はないと思う。

遠藤教育長：実際に希望を出してくる人数を平成29年度中に掴んでおいた方がいいと思う。

沼 田 課 長：意向調査をするならば、事業の是非を問うのではなく、指定した条件で参加するか否か、参加する上での希望をとるという形になる。

遠藤教育長：どこまで子どもたちに公平な機会を与えられるか。経済的に苦しい家庭や、特別支援を受けなければならない子どもたちは手を挙げられるのか。

沼 田 課 長：市町村によっては支援をしているところがあるが、割り切りも必要だと思う。そうでなければ、手を挙げた子どもたちを全員連れて行かなければならなくなる。

遠藤教育長：例えば肢体不自由などで、支援が必要な子どもが手を挙げたとして、支援をする人が必要な場合、引率を増やすなどの対応はできないだろうか。

伴 委 員：保護者が同伴するというのはどうだろうか。同行する保護者の費用については全額自己負担になると思うが。

遠藤教育長：今日は結論が出そうにないが、来週早々に一旦町長と協議する。対象は中学2～3年生、人数は10～20人、引率は3人、費用については一人当たり40万円、保護者負担は10万円として調整を進めていく。

## 9 その他

### (1) 各学校の卒業式・入学式の予定について

(資料3)

卒業式	3月 1日	厚真高等学校	出席	遠藤教育長
	3月14日	厚南中学校	出席	長門委員
		厚真中学校	出席	伴委員
	3月17日	上厚真小学校	出席	佐藤委員
	3月22日	厚真中央小学校	出席	遠藤教育長
入学式	4月 6日	厚真中学校	出席	佐藤委員
		厚南中学校	出席	伴委員
	4月 7日	厚真中央小学校	出席	森本委員
		上厚真小学校	出席	遠藤教育長
	4月11日	厚真高等学校	出席	遠藤教育長

### (2) 平成28年度「四者懇談会」の開催について

3月27日(月) こぶしの湯あつま 全員出席予定

### (3) 平成28年度胆振管内教育委員会研修会

2月15日(水)～16日(木) 登別グランドホテル  
遠藤教育長、佐藤委員、森本委員 出席予定

## 10 次回委員会の開催日程

・2月27日(月) 午後1時30分(予定)

## 11 閉会

厚真町教育委員会会議規則第18条の規程により署名する

平成 年 月 日

教育長

平成 年 月 日

署名委員

平成 年 月 日

署名委員

平成 年 月 日

生涯学習課長（調製）